

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2372501193
法人名	有限会社 富士松
事業所名	グループホーム 輪楽笑Ⅱ
訪問調査日	平成 21 年 3 月 5 日
評価確定日	平成 21 年 3 月 11 日
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2372501193
法人名	有限会社 富士松
事業所名	グループホーム 輪楽笑Ⅱ
所在地	愛知県春日井市白山町5丁目8番地6 (電話)0568-52-1719

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市長原町一丁目24番地 N203号室		
訪問調査日	平成21年3月5日	評価確定日	平成21年3月11日

【情報提供票より】(21年 2月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 10 月 28 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	17 人	常勤	5 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 4.5 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	1 階建て	1 階 ~	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(2月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.5 歳	最低	74 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	白山外科クリニック 三好歯科 脇田歯科
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、閑静な新興住宅地にあり公園が廻りに2か所あり、環境の良い場所に建っている。代表者は会社を退職後、高齢化が進む住み慣れた地域に少しでも貢献出来る仕事かと思ひ、家族が負担が無く年金だけで利用可能なホームを立ち上げた。ホーム名は「輪楽笑Ⅱ(わっはっはツウ)」と読み(輪になって楽しく笑ってすごす)との意味で、方針も「ゆっくり、楽しく、みんなで」掲げている。ホーム長は「笑いのある暮らし」をモットーに、職員が良いと思ったら「その時々で、ベストを尽くせ」を合言葉でケアに取り組んでいる。健康管理は、看護師が毎日チェックし、緊急時対応は「緊急時利用者情報」が整備され、代表者かホーム長が即刻医療機関と連携できる体制である。家族への情報も毎月「輪楽笑Ⅱ便り」で詳細な介護記録、利用者の笑顔の写真等で報告され、情報の共有が計られている。職員は、1年以上退職無しで定着も良く、思いやりがあり、利用者も表情が明るく、理念どおりの笑いの絶えない楽しい明るいホームである。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価では、職員の異動等による影響への配慮及び運営に関する家族等意見の反映等が求められた。職員の異動では、利用者1人に3人のチーム担当制を敷き、責任を待つことにより情報がきめ細かく把握され、ケアが向上し職員のやる気に繋がった。家族意見の反映は、玄関に意見箱投函用ポストを設置し、誰でもが希望、意見、苦情が言える体制になった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>会議で自己評価の意義を全員に説明し理解を得、全員で取り組み、まとめはホーム長が行なった。職員個々は、グループで検討したり夜勤の活用、自宅での勉強等、努力していた。全体では評価の項目内容が出来るよう、研修会の資料を基に勉強会を実施し改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>今年度は、11月に1回開催され市介護課職員、地域包括職員、白山地域社協会長、町内会長、老人会長、利用者代表、職員等が参加している。主な議題については、地域の方々との交流、推進会議のあり方、決算報告、質疑応答等である。利用者家族からは、良くしていただいて有難う、他の出席者からは、この利用料で経営はできるか等の質問があり、ホームの理解が深まった。今後は運営推進会議が地域の理解と支援を得るために重要な機会となるので是非とも2か月に1回程度の開催を期待した</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族と話が出来る面会時、行事、運営会議等は職員の方から積極的に話しかけ意見、苦情、思い等を聴き運営に反映するよう努力している。玄関には意見箱を設け、いつでも、誰でもが意見等が言い易い環境を整えている。毎月写真入りの『輪楽笑Ⅱ便り』を発行し、利用者個々の暮らしぶり、健康状態、行事等を報告し家族から喜ばれている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域のクリーン作戦参加やゴミ袋持参の公園散歩、またホームでの行事参加等、地域の方々とのふれあいに努めている。元気の出る会(社協のミニディサービス)へ毎月必ず出席したり、夏祭り等地域の行事には参加し、交流を大切にしている。隣近所には、必ず職員と利用者が一緒に回覧板を届ける等、ふれあう機会を持つようになっている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームでは、利用者が地域で楽しく自分らしく暮らし続けることへの支援を行っている。独自の理念を作っており、その理念は、職員への意識づけや利用者本人及び家族にも事業所のケアの方向性を示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は目に付く場所に掲示され、一人ひとりが意識を持って取り組んでいる。全体会議や朝のミーティングでも職員間の意識づけがなされ、日々ケアに役立っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	元気の出る会(社協のミニディサービス)へ毎月欠かさず参加し、地域の対象利用者との交流を大切にしている。地域のクリーン作戦へ参加したり、近くの公園へ出かける時には、ゴミ袋を持参して散歩がてらゴミ集めをしている。その時出会った人達へは、積極的に挨拶、「お茶など飲みに来て下さい」と声がけするようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、評価を活かし、改善点は実践に移されている。研修会での資料を基に勉強会を実施したり、職員をチーム化してケアを行う等、具体的な改善に取り組む事が出来るようになった。外部評価により気づき、改善し、新しい方向性を見つけると実感している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内容は、経営報告や利用者の生活状況報告に終わり、サービス向上に直結するような具体策の提案が出されていない。今後は、自己評価及び外部評価内容を、運営推進会議の中で積極的に討議しサービス向上に向けられたい。	○	ホームでは、運営推進会議の年間計画表を作り、事前に会議出席メンバーが積極的に意見が出しやすい体制にして、定期的な会議開催を望みたい。また、今後も行政関係者の積極的参加により、グループホーム経営の理解、支援、協力に向けられることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険課へ利用者と一緒に出向き、代行申請や、家族の相談についてのアドバイスを受けること等、必要な連携は取れている。	○	運営推進会議を通じて、市町村担当者と具体的な運営実態の共有等について、さらに定期的に意見交換できることに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族へは、毎月利用者一人ひとりの写真入りの「輪楽笑Ⅱだより」を発行し、個別に利用者の暮らしぶりや健康状態をこと細かに報告している。利用者に関する個々の記録及び金銭管理帳については、家族はいつでも閲覧できるようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がホームに訪問の折には、職員の方から積極的に話しかけ、日頃から家族と気軽に話ができる雰囲気づくりに努め、家族の思いや苦情を聞き出すよう努力している。玄関に「意見箱投函ポスト」設け、自由に言えるようにし、緊急の意見、要望等は毎日のミーティングで話し合い、運営に関することは全体会議で共有し業務に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職者は今までに少ないが、利用者へのダメージを防ぐためには、常に、介護記録、申し送りノート、業務日誌等により、職員間で情報の共有に努力している。3人が1チームをつくり、利用者の部屋割担当を6か月交代でケアに望みながら、親しみのある関係を継続している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会主催の研修が、3か月に1回行われるが、その折には必ずホーム長とスタッフがペアで参加し、月1回の全体会議の時、研修内容を伝え検討する機会としている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の東尾張地区ブロック長として、今年度はホーム長が就任した。活動を通じ、積極的に、ネットワーク作りや勉強会、研修会を行い、サービスの質向上に取り組んでいる。	○	連絡協議会での活動にとどまらず、同一法人の別ホームや、他のグループホーム事業者とのスタッフ交流により、ケアの向上に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心して入居できるよう、その時の状態に合わせて見学、体験入居等を設けている。入居に当たっては、ホーム長が利用者宅訪問で情報収集したり、職員も利用者が不安にならないように、家族等と十分話し合い情報を共有し、ホーム全体で徐々になじめるよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、一方的な介護にならないように、利用者の持っている能力を把握し、立場、尊厳を大切にして、楽しく快適に過ごせるホームを目指して支援している。編み物・料理・すりこぎの上手な使い方などを教えられ、職員は利用者から学ぶことも多い。花を飾る・玄関の掃除をする・廊下をモップ拭きするなど、利用者は我が家同様の気持ちで楽しく生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3人1組のチームで、6か月周期の、グループ担当制にして職員は利用者寄り添い、日常生活をスムーズに過ごせるよう、共に生活する中で本人の希望や願いを汲み取るよう努力している。意志疎通が困難な利用者へは、ジェスチャーで対応している。さらに在宅時担当のケアマネに問い合わせたり、家庭へ出向き家族から聞き出したりしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	チームで作成したケアプラン連絡表、毎月の申し送りノート、介護記録や本人、家族の意見、全体会議での意見交換をもとにケアプランを作成している。利用者の日々の変化は、日常的なミーティングを通じて話し合いケアプランに反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3か月に1回見直しをしているが、トラブル発生(転倒し歩行困難)時には、現状に即したプランへ家族と相談しながら、プランの見直しを行い実践に取り組んでいる。ホームでは、家族のどのような些細なことも、話してもらえ雰囲気作りに努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医については、契約時に確認している。通院介助については、基本的には家族の対応としているが、緊急時や家族が介助出来ない時は、職員が対応したり、提携医以外への受診も行っている。感染症予防のため、家族と相談して、利用者全員と全職員は(費用は施設負担)予防接種を受けたりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、提携歯科医に年2回ホームへ来てもらい、歯科検診を受けている。かかりつけ内科医により、月2回の往診を受けている利用者もある。また、専門医については予約診療を受け付けてもらい、利用者の誘導、介助対応や指導に応じてもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時、看取りの指針を示し同意を得ている。重度化した場合、家族、医師、ホームと話し合い看取りの方針について再度全員で共有している。家族の希望を受入れ家族が泊り込み等さまざまな課題に取り組みながら看取り支援した経験がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	採用時、特に介護支援を始める前には、プライバシー保護、個人情報の重要性を説明している。トイレ誘導時には、他の利用者に気づかれないように、それとなく誘導し、扉を開けたままで支援しないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭と同様の生活リズム、個別性の支援を臨機応変に対応するよう職員全員が心がけている。「ダメ」「まってね」等という利用者の気持ちをスツブさせないようにしている。そわそわしていると見受けられたときには、それとなく寄り添い、散歩へ連れ出したり、希望があれば、同行して喫茶店へ行ったり、洗濯物のたたみを職員と一緒にしたり、買い物へ職員と車で行く等、利用者の希望に沿っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫したジャガイモを洗って皮をむく、小口切りにする、配膳準備やかたづけ等、職員と一緒に楽しみながら行っている。いそいそとエプロンをかけ食器洗いをする等、家族同様の雰囲気である。また、献立を考えるときには、利用者各々の郷土料理にヒントを得たり、好物を聞き出すようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後2時から6時まで入浴でき、利用者の希望に合わせて一人ひとりゆっくり楽しめるよう支援している。入浴を嫌がる方については、職員と一緒に入る、または足浴等と言って促し入浴への努力をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの前庭で炭を使いサンマを焼き、皆で美味しく食べたり、おはぎ・ぜんざい作りを楽しみながら作っている。春日井福祉の里へ全員が月1回出かけ、レストランで好きなメニューを頼み、外食の時間を楽しんだりしている。職員は、常に一人ひとりの趣味、好み、楽しみ等を把握しながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スーパーへの買い物へは、週4回程職員の運転する車で利用者5人と行き、あとの4人は、近くの公園へ散歩に出かけている。外食は月1～2回行き、近くの喫茶店へは月1回行っている。ホームでは、利用者全員が参加できるように努力している。また、個別に美容院や散歩介助を希望する利用者には、シフトを工夫しながら支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵をかけずチャイムで対応し防犯上の都合や職員が手薄の時間帯は鍵をかけることがある。外出を希望の方は職員が付き添い自由な暮らしができるよう取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難マニュアルを整備している。非常音を合図に、利用者は各部屋の入り口にかけてあるヘルメットを付け、玄関へ集合する練習を月1回行っている。飲料水を1人当たり3L分や米は常に30Kの備蓄をしている。また、その避難路へは物を置かないようにして、速やかに利用者が移動できるようにしている。	○	ホーム内で最低3日分の食料備蓄やカセットコンロの用意、消火器を使っの訓練や消防署員の指導による避難訓練の実現に期待したい。また、近隣住民と日頃から積極的に挨拶する等、顔見知りにながけることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、栄養のバランスを考えながら献立を作り、介護記録により利用者の(食物、水)摂取量を把握して体調管理に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの花を、いけ花の得意な利用者により、玄関や居間に飾っており、家庭の雰囲気を味わうことができる。共有スペースは、明るく広くゆったりとした大きなソファが、利用者全員分置かれている。廊下には、イチゴ狩りの写真や利用者が作った小物が飾ってある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋間と和室があり、エアコン、物入れ、洗面台が、各部屋に備え付けてある。居室内でベッドを希望する人は、長年愛用したものを持ち込んだりしている。ミニタンス、調度品、趣味の人形、絵画、写真、アルバム等も持ち込み、一人ひとりの希望に合わせた環境づくりに取り組んでいる。		